

指定管理施設の管理運営評価票（評価対象年度：令和 4 年度）

| | |
|-------------|-----------------------------------|
| 施設所管部署 | 健康福祉部地域包括ケア推進課 |
| 評価対象期間 | 平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日 |
| 評価対象年度指定管理料 | 112,862,613 円 |

1. 施設の概要等

| | | |
|-------|-------|--|
| 施設の概要 | 名称 | 焼津市立養護老人ホーム慈恵園 |
| | 所在地 | 焼津市大覚寺三丁目 2 番地の 3 |
| | 設置目的 | 老人福祉法第 11 条の規定により概ね 65 歳以上の者であって環境上の理由及び経済的理由等により、居宅において養護を受ける事が困難な者を入所させ、介護・給食・健康管理・生活指導等を行い、生活の安定と福祉の増進を図ることを目的に設置 |
| | 設備の概要 | （施設面積）2,401.01 m ² （施設構造）鉄筋コンクリート 2 階建て （施設内容）定員 60 人 2 人部屋 16 室 個室部屋 32 室（視覚障がい者対応居室 4 室含む） |

2. 指定管理者の概要等

| | | |
|-----------|--|-------------------|
| 指定管理者 | 名称 | 社会福祉法人 焼津福祉会 |
| | 所在地 | 焼津市大覚寺三丁目 2 番地の 1 |
| 指定管理業務の内容 | ○焼津市立養護老人ホーム指定管理者管理運営仕様書 別表 1 及び別表 2 に定められた事項（別紙参照） | |
| 指定期間 | 平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和 6 年 3 月 31 日 | |

3. 指定管理者業務運営項目評価

| 評価項目 | 指定管理者 | | 市 | |
|---------------|-------|--|----|--|
| | 自己評価 | 評価の理由 | 評価 | 評価の理由 |
| 1. 施設体制に関する評価 | B | <ul style="list-style-type: none"> 老人福祉法に定められた配置基準に沿って人員配置をしている。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部外部研修に参加したが、概ねリモートによる研修に参加した。また、中部地区公立養護老人ホーム施設職員連絡協議会の研修会についても書面によって各施設の抱えている課題について調査研修を行った。法人職員研修では、施設長・サビ管等を対象としたハラスメント予防研修を行った。また、例年の法人研修 | B | <ul style="list-style-type: none"> 老人福祉法に定められた職員配置など、関係法令や仕様書に定められた実施体制となっている。業務日誌には苦情やヒヤリハットも記録し、定期的に市へ報告している。 体調管理等の感染対策及び管理体制が徹底されていたことで、施設内で利用者に新型コロナウイルス感染者を出さなかった。 緊急時における対応など、 |

| | | | |
|--|--|---|---|
| | | <p>として法人職員全員が事前に「5分のできる職場のストレスセルフチェック」を視聴し、ストレスチェックを行った。その後、「メンタルヘルス教室」の動画を視聴してセルフケアについて学んだ。個々の感想を各施設でまとめ、法人の研修委員に報告を行った。法人研修委員がまとめた報告書が回覧された。ストレスから病気になる、また、利用者虐待へ繋がる恐れもある。ストレスへの気づきとどう対処したら良いかを学んだ。職場の内部研修として、感染症対策として看護師が講師となり感染症の概要を学び、新型コロナウイルスやノロウイルス汚物処理、エプロン、予防着等の装着について学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に対する危機意識を持ち感染防止に努めた。対策として体温、体調チェックを毎朝行い、職員及び利用者の体調管理を徹底した。結果として新型コロナウイルスも含めた感染者はいなかった。 ・緊急時に備え、AED 研修、緊急時対応ロールプレイを行った。 ・入所者状況、施設の維持管理業務の実績、修繕、利用者からの苦情、ヒヤリ・ハット、事故等を記載した報告書を毎月市へ提出した。その他利用者の問題行動等があった場合は逐一市担当者へ報告・相談をし、連携を密にした。 ・令和元年度から虐待防止委員会及び身体拘束廃止委員会を設置し事例検討等を中心に併せて年6回実施し、検討を行った。 ・利用者の機能低下による誤嚥や転倒等の事故を防ぐため環境整備に努めるとともに、朝のラジオ体操、昼食前の口腔体操、夕方のリハビリ体操を随時行った。 ・毎月1回防災訓練を実施した。水害、地震、津波、火災（出火場所はその都度変更）を想定しての避難訓練や伝達訓練、夜間想定訓練を実施した。 ・9月23日、台風15号の際は、夜間にもかかわらず、焼津市より大覚寺地区に避難指示が発令されたのを受け、瀬戸川の水位上昇 | <p>マニュアルの整備や見直しも随時行っている。9月の台風15号では、夜間でも2階への垂直避難ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止委員会などの各種委員会を設置し、より適切な対応がとれるよう体制整備に努めている。 ・転倒や誤嚥を防ぐためのリハビリ体操や口腔体操に力を入れ、事故防止や機能低下を防ぐ対策が取られている。 |
|--|--|---|---|

| | | | | |
|--------------------|---|---|---|--|
| | | も見られた為少ない職員体制であったが、午前1時40分に全員2階へ垂直避難を完了することが出来た。 | | |
| 2. サービス内容や水準に関する評価 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意向や状況把握に努め、年間個別支援計画を作成し、その見直しや評価により個々に応じた支援をした。 支援計画を利用者に分かりやすく説明し、各部屋に目標を掲示して利用者が目標を意識して生活できるように配慮した。利用者の健康増進を図り、生きがいをもって生活できるよう、散歩や軽運動等の機会を提供した。 ・保証人に4年度「個別支援計画」「アセスメントシート」「保証人シート」を送付し、利用者の様子を知らせてもらい、保証人の思い、要望等を全職員で周知し、今後の支援に活かすことが出来た。 ・月1回「利用者との話し合い」を行い、各職種から施設利用等の注意点等を伝えた。 ヒヤリ・ハット報告を行い利用者自身にも注意喚起を行った。意見や苦情を直接受ける機会とした。利用者に理解しやすいように、実施報告書をわかりやすく、大きな字で掲示した。 ・年3回「マナーチェック」表により、職員自身の振り返りを行い、サービスマナー向上委員会で集計し、職員で目標を定め、利用者への接遇向上に努めた。 ・利用者一人ひとりに、聴き取り調査を実施した。65.7%の利用者が入所前の生活より慈恵園での生活の方が良いとの回答が得られた。コロナ禍ではあったが、感染予防に努め外部講師による講座・クラブ活動が再開された。又、各行事に外部から演芸ボランティアさんに参加していただき、今まで以上に盛り上がりを見せた。パンを食べたいとの希望が多く、誤嚥防止のためパンの提供を控えていたが、月1回「パンの日」を作り見守り強化で提供したところ大変喜ばれた。出来る事から要望に応じて行ったので利用者の満足度が上がったと思われる。利用者への対応や活動内容を見 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・本人と話し合い、また意思表示がうまくできない利用者には日頃から観察を行い利用者個々の特性を踏まえた支援ができています。また、保証人とも意思疎通し、個々の支援に反映させている。 ・施設の竣工から20年経ち、更新や修繕が必要となる設備等が増えている中で、維持管理を適切に行っている。 ・感染対策を行いながら、外部の人を招いた講座や行事など、これまで制限されていたサービスが再開できるようになった。 ・入所者からの希望に沿い、パンを提供するなど、入所者の満足度が向上するように取り組みを行っている。 ・苦情・要望を申し出る利用者の意向を受けとめ、解決策を検討するなど、適切に対処していた。 |

| | | | | |
|------------------|----------|--|----------|--|
| | | <p>直して、個々に応じた支援に繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に必要な栄養を満たした、季節感や変化に富んだ献立作成に努め、嚥下能力や疾病を把握し、食事形態や内容を各々に配慮したものにすることで、利用者の健康を食事面から支援した。 ・各種委員会を開き、全職員が安全管理や支援の評価、見直しをして支援の充実に努めた。 ・苦情・要望を申し出る利用者の意向を受け止め、早めの対応に心掛けた。利用者と共に解決策を検討し、理解していただいた。 (苦情 14 件対応) ・苦情の詳細は、事業実績報告書に掲載した。 焼津福祉会の広報紙に年 1 回苦情件数と内容を掲載し、情報公開を行った。 ・各種委託業務は委託業者の業務内容を吟味し、年度契約を締結した。 ・適切に施設・設備・備品管理を行った。 ・年度当初の利用者数は 32 人。年度中に 9 人が入所し、3 人が退所して 38 人となった。 (入所率は 63%) | | |
| <p>3. 収支等の評価</p> | <p>C</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・予算書作成は前年度の留意点を踏まえ、各職種職員の意見を聞き作成した。予算は理事会の承認を得て執行した。 ・施設会計通帳と印鑑は別々に保管することにより、適切な管理に努めた。 ・利用者の預り金は通帳を金庫で保管。印鑑は施設長が管理し、預り金担当者が印鑑を確認する等内部牽制をし、適切な管理に努めた。 ・適切な事務処理、会計処理を行う為、資金の運営管理等について組織の牽制体制を意識し事業運営にあたった。 ・月次報告書(試算表等)は、経理規程に基づき報告を行い、収支の資金の動きを把握し、通帳との整合を確認した。 ・毎月、取引金融機関に預金月末状況表の発行を依頼し、月次報告書と照合した。 | <p>C</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・経理事務や予算の執行について、前年度同様適切に行われている。 ・支出について、効率的な運営に努めているが、電気料金及びガス料金の値上がりが大きくなっている。令和 5 年度もこの影響が継続していくと考えられるため対応を検討する必要がある。 ・収入について、平成 31 年度から指定管理料の算定方法を改め、定員未充足分の事務費を指定管理料に増額し、また入所者数の増加により黒字決算となった。 ・食糧費や電気料金などの物価高については状況の改善が見込めず、また設備や備品の更新時期とも重なり経費の増加が見込 |

| | | | | |
|------|---|---|---|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に疥癬が流行し、一早く消毒が必要となったが、予算がなく困っていた所、市内の篤志家から100万円の寄付があったので消毒を行うことが出来た。また、光熱費の高騰があったが、前年度比増額の半分を焼津市より補助していただいたことにより予算が執行出来た。光熱費の補助と寄付があり、昨年度末より現員が6名増え、また経費の削減に努めた結果、久々の黒字となった。 ・建物、設備の老朽化に伴い、修繕が増えている。市の負担でエレベーターの修繕を行った。また、施設負担で居室のエアコン4台の更新を行った。今後随時更新が必要となる。 ・雨漏りが特に酷い箇所が2箇所あり、天井が劣化してきている為早急な修繕が必要となる。 ・施設の経年劣化に備えて今後は計画的な修繕が必要となる。 | | <p>まれる。</p> |
| 総合評価 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの意向や状況に応じて、支援員・栄養士・看護師・相談員等が生活面・栄養面・健康面等多面的に捉え、個別支援計画の作成や見直しを行い、利用者支援にあたった。 ・利用者の健康状態を把握して早めに受診をするなど嚥下能力や疾病に応じて食事形態や内容を配慮することで、重症化を防ぐことができた。 ・県内の養護老人ホームで新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、全職員危機感を持ち、感染予防に努めた。その結果、新型コロナウイルス、ノロウイルス等の感染症が発生しなかった。 ・組織の牽制体制を意識しながら、適切な事務処理、会計処理を行った。 ・建物や設備・備品の老朽化に伴い更新・修繕箇所が増えている。市の負担によりエレベーターの修繕を行った。 ・居室エアコンを慈恵園の予算で4台更新を行った。今後随時更新が必要となる。 ・エアコンが値上がりし、今後は1台10万円を超える為施設で更新ができなくなる。故障し、使用 | C | <ul style="list-style-type: none"> ・協定書及び仕様書を遵守し、その水準に沿った管理内容である。 ・収支等については、適正に執行できており、今年度は黒字決算となり大幅に経営状態は改善された。しかし指定管理者側では対応できない入所者数の減少による収入減及び物価高の影響による支出増が今後課題である。 ・建築から20年経過し設備などの適切な更新及び物価高への対応が求められている。 |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | <p>できなくなった際、市の予算の関係で直ぐに対処できなくなるのが課題。</p> <p>現実的に、現在支援室のエアコンが故障中で夜間職員が高齢のため体調面で不安を抱えている。早急なエアコンの更新をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・照明器具一つとっても、老朽化により電球交換だけではなく、器具交換をしなければ対処できなくなってくる。随時LED化していかなければならなくなり、今後ますます修繕費が増加してくる。計画的な修繕等が必要となる。 | | |
|--|--|---|--|--|

(単位：円)

| | | 事業計画（当初予算） | 令和4年度 | |
|------------------------|------------|------------|-------------|-------------|
| 事業 収 支 実 績 | 収 入 | 指定管理料 | 109,686,000 | 112,862,613 |
| | | 利用料金 | 250,000 | 169,383 |
| | | その他の収入 | 312,000 | 1,929,832 |
| | | 計（A） | 110,248,000 | 114,961,828 |
| | 支 出 | 人件費 | 65,422,000 | 64,349,974 |
| | | 事務費 | 24,297,000 | 24,136,958 |
| | | 事業費 | 20,409,000 | 24,349,002 |
| | | 予備費 | 0 | 0 |
| | | その他 | 0 | 0 |
| | | 計（B） | 110,128,000 | 112,835,934 |
| | 収支予算額（A－B） | | 120,000 | 2,125,894 |

【評価区分】

評価基準：A（優 良）協定書、仕様書等を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。

B（良 好）協定書、仕様書等を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。

C（課題含）協定書、仕様書等を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。

D（要改善）協定書、仕様書等を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。